【座談会】

LEC 会計大学院税法コース修了生座談会

税理士として活躍する 4 名の修了生に、LEC 会計大学院での 2 年間を振り返りながら、大学院での学び、修士論文作成への取り組み、そして今につながる基盤や志向など、フランクにお話いただきました。特に修士論文完成までの経験談は、非常に共感でき励まされる方も多いはずです。濃密な 2 年間で身についた知識と力は、まさにプロフェッショナルとしての土台となっています。

2024 年 11 月 16 日（土）開催　左から劉先生、柳井さん、筬島さん、味水さん、平林さん

＜修了生＞

筬島　尊友樹　　2018 年 9 月修了／税理士（2020 年 5 月登録）
修士論文テーマ「交際費等の判断基準の明確化 －萬有製薬事件を中心に－」

平林　達夫　　2019 年 3 月修了／税理士（2020 年 2 月登録）
修士論文テーマ「株主優待の租税法上の取扱い －配当該当性と交際費等該当性に着目して－」

味水　知佳　　2019 年 3 月修了／税理士（2021 年 9 月登録）
修士論文テーマ「法人税法第 132 条の 2 の「不当」の意義 －「濫用」と「不当」の意義の検討を中心に－」

柳井　るみこ　　2020 年 9 月修了／税理士（2022 年 2 月登録）
修士論文テーマ「無償取引における適正所得算出説の妥当性の検証 －法人税法第 22 条第 2 項を中心に－」

＜教員（司会進行）＞　劉　昊　　准教授　租税法研究指導副査構成指導担当

劉　本日はお集まりいただきありがとうございます。4 名それぞれに、在学中、非常に優秀な修士論文を書き上げられ、税理士としてのキャリアを積み上げておられます。本日は楽しみにしております。よろしくお願いします。

筬島　2016 年度秋入学の筬島と申します。LEC 会計大学院修了は 2018 年度秋です。最終的に税理士として登録したのが 2020 年 5 月でした。2021 年に新宿で独立開業し、しばらく 1 人で頑張っていたのですが、2023 年の年末に親戚の税理士が亡くなり、急遽継承することになり、事務所を茅ヶ崎に移転させました。そこから数ヶ月はとにかく大変で、筬島税理士事務所の従業員となった息子さんと二人三脚で、幸い全ての顧問先様に受け入れていただき、地固めの 1 年がようやく終わりつつあるかなというところです。実は自宅がまだ東京都内のままのため、片道 2 時間かけての通勤が大変で･･･。税理士会から依頼のある電話相談や無料相談は、朝 8 時半から対応が必要な場合もあり、通勤の苦労を思うと今からどうしたものかと悩んでいます。

平林　2017 年度春入学の平林です。2019 年の春に修了し税理士登録は 2020 年 2 月です。叔父の事務所で所属税理士として勤務していたのですが、もともと身体の調子の悪かった叔父がそれを機会に引退を言い始め、その年の確定申告が終わった 4 月に完全引退し、私が事業承継した形です。幸い継承後に離れてしまう顧問先様は一社もなく、職員も全員残ってくれました。今後を見据えて新規の顧問先の開拓も進めているため仕事は膨大になる中、職員を増やしたくても昨今の情勢で人が入らない。それが今事務所としては一番の問題です。職員に負担はかけられないので、在学中と同じように 1 週間は 9 日、1 日は 28 時間あると思って私が仕事をしています。

味水　2017 年度春入学の味水です。私の場合、大学院修了時にはまだ税法 1 科目の受験が残っていたので、すぐの免除申請はできませんでした。税務の仕事もしておらず、大学院修了直前の 1 月から今の事務所での勤務をスタートさせ、まさにゼロから実務を覚えていきました。修了翌年の税理士試験で科目合格し、税理士登録が 2021 年 9 月です。事務所に入所した際はアシスタントからのスタートで入力作業などの基本業務を一から教えていただいたのですが、税理士登録したタイミングでクライアントを任され 3 年ほどになります。大学院入学時は子供がまだ小さく、上が小学 2 年生、下の双子が 2 歳でしたが、その長男がもう中学 3 年生、下の子たちももう小学 4 年生になりました。大学院入学から今に至るまでを思い返して、時間の経過の早さに驚くとともに、この 7 年ほどで自分の環境が劇的に変わったことを改めて感じているところです。

柳井　2018 年度秋入学の柳井と申します。大学院入学前に税理士 4 科目に合格していたのですが、仕事も忙しい、家庭のこともある、おまけにむち打ちしまして･･･。勤務先に相談したところ、業務調整してもらえることになり、思い切って大学院に入学することにしました。大学院修了後に出産し、仕事はいったん退職しました。大学院での修士論文、結構楽しかったんですね。論文の質はさておき面白くて。主査の先生の関係で学会に入れてもらい、なかなか参加はできていないのですが、学会員ということにはさせていただいています。子どもがまだ小さいこともあり、税理士という仕

事は生半可な気持ちでできる仕事ではないので、きちんと自分のことが落ち着いてから仕事を再開しようと、タイミングを見ている状況です。税法の進みが早いので、置いていかれる怖さはいつもあるんですが、でも、そこはいつかどうにか取り返すと信じて、今は育児に専念しています。

在学中に強く意識付けられた「税理士は法律家」という志向

劉　ありがとうございます。よろしくお願いします。国税審議会への認定申請ですが、皆さんの時代は早いと 3 か月、待っても 6 ヶ月くらいで結果が出ていたと記憶していますが、今は免除申請数がものすごく増えていて、3 か月なんて夢物語、半年～長いと 1 年も待つことがあるようです。皆さんが在学している時代は、大学院に入って免除認定を受けるという選択は邪道というか官報合格者より軽く見られる風潮があったのではないでしょうか。最近ではそこの認識も変わってきて、申請数も膨大に増えているのでしょうね。

平林　年配の先生の中には、まだそういう考えの方も多いようですが、修士論文を書いて科目免除を取って早く税理士になるという選択をする方が増えてきましたね。そういう方たちが実際実務で活躍し始めてもいるので、だんだんと偏見はなくなってきていると思います。

劉　「修士論文を書く」ことは、かなりのプラスになるということが、世間的に段々と認知されてきているのでしょうね。

平林　そうですね。逆に、税理士だったら論文くらい書けて当たり前、となるといいですよね。私の事務所のスタンスとして、何か困ったことがあれば、とにかく税法の条文から判例から評釈から全てかき集めて理論武装で攻める。それができるのも、論文を書いた経験があるからと言えます。

味水　在学時には先生方から「税理士は法律家」だと。ただ事務処理をするだけではだめ、法律家という意識を強く持たないとダメだと繰り返し言われていました。税理士の仕事のイメージといえば、申告書を作るなど手を動かす仕事ですよね。大学院では「そうじゃないよ」と。結果として申告書はできるけれども、そのベースとなるのは法律で、全てのことに法律の根拠がある、ということを繰り返し聞きました。

劉　研究の世界に入って、初めてそういう認識を持ったんですね。

味水　そうです。

平林　入学して初めてのオリエンテーションで「皆さんなぜ修士論文を書こうと思ったのですか」という話から、平然と条文の話が出てきて･･･、その時はちんぷんかんぷんでした（笑）。ですが「税理

士は法律家なんだな」とすごく納得して。そこを強みや武器にできれば、専門外から税理士を目指している私でも食べていける、税理士としてやっていけると思ったのは、その頃からかもしれないです。

筬島　入学前は Word の使い方も文章の書き方も全く我流でしたが、今は、事務所として出す文書は全て大学院で慣れ親しんだ論文様式、全部そのまま使わせていただいています。事務所として統一された様式を使うと、それだけでお客様に見せた時に仕事の格式が一段上がるように感じます。それからお客様に税法を説明する時、税法は元がガチガチに硬いので、砕きすぎず硬すぎず、かつ間違いなくわかりやすくというバランスが非常に難しいです。そのような時には、大学院での指導の原点に立ち返り、相手の視点に立つ、一文一義、曖昧な表現を安易に乱発しない、というような教えを生かしています。お客様から説明が丁寧でわかりやすいと言ってもらえることは、税理士として非常に嬉しいです。大学院で学ばなければ絶対に気づけませんでした。本当に感謝しています。

柳井　入学する時に、大学院進学の前向きな理由が 1 つ欲しかったんです。税理士 4 科目に合格していましたが、このまま 5 科目合格しても実務では戦えないという感覚が当時ありました。何が足りないのか考えた時に、立法の経緯や条文の根底に流れるものを掴んでいない、条文の枝葉ではなく趣旨を知りたいという思いに至りました。ベテランの先生方はやはりその辺りがすごく強い印象があります。私もそうなりたいし、どうしても身につけたいと思い大学院に進学しました。修士論文を書き続ける中で、どんどん自分の中に刷り込まれていった感覚があります。A か B かどちらにもとれるような事例でも、やはり趣旨に立ち返ることができる力があると、自分で責任をもって判断できることを実感しました。在学中にその感覚を得たことが自信になっているし、優位性も感じています。在学中主査の先生から、条文は正確に一語一句絶対に間違って解釈してはいけない、という教えを受けまして。とにかく文章に対して謙虚になりましたね。

悩みと苦労の中取り組んだ修士論文
「自分でいかに動くか」がカギ

劉　ありがとうございます。私は博士課程まで進みましたが、修士課程に入った時、修士論文作成への不安を非常に感じていました。皆さんは大学院入学時にハードルは感じませんでしたか？修士論文への恐怖感といいますか。

平林　学部の時に厳しい教授の下で卒業論文を仕込まれたため、修士論文も書けるだろうとは思っていました。もちろん卒論と修論は違いますが、とりあえず文章を書くのは自分はできるという感覚は

ありました。ただ、学部時代は国際関係論、大学院は税法、と分野が全く違うのでその点の不安はありました。

劉　学部時代の経験を活かせていたということですね。

平林　そうですね。在学中に劉先生にもお見せした論文の構成設計図ですが、それも学部時代の指導教授の教えです。論文は小説を書くのと一緒、起承転結で話の流れを作りなさい。そして全体の構成を決めてから書き始める、そうしないと迷うぞと。その経験があったので書ける自信はありました。

劉　筬島さんは卒業論文の経験はありましたか？

筬島　卒業論文は書きましたが、修士論文は最初にテーマを選ぶ段階から想像と全く違っていました。プレ序論クラスが始まって１ヶ月ほど経った頃、当たり前ではあるんですが「学生をお客様扱いしてくれるところじゃないんだな」ということを痛感しました。主査の先生から出された課題の答えに１週間調べても全くたどり着けず、途方に暮れていた時期がありましたね。副査の先生に背中を押してもらって少しずつ動き始めましたが。プレ序論クラスの頃が一番苦しかったです。

平林　最初は何もわからないので、例えば「交際費の何が疑問なの？」と言われてもスパッとは答えられないですよね。

柳井　まだ文献を読み慣れていない時期ですよね。いくら「文献を読んでください」と言われても専門用語だらけで読んでもわからない状態でした。

味水　私は入学前からとにかく不安で。元々税理士の仕事に興味はあったのですが、年齢も年齢だし、受験だけでは遅くなる、それなら大学院に入学しようと考えても、私に税法の論文なんか書けるわけがない、と結構何年も何年も迷っていました。思い切って入学したら、それこそ同期の皆は、すらすらと条文が出てきたり、このテーマについて書きたいという熱意を持っている人も多くて、ますますやばい、どうしよう･･･と。何について書こうか、これにしようかあれにしようか、私やっぱり書けないんじゃないか、寝ても覚めてもずっとそのことばかり考えている時期が半年ぐらいありました。当時は夏期休暇中に「プレ序論発表会」がありましたよね。それに向けて何らか形を作らないといけないという、それもまたプレッシャーでした。森の中に迷い込んじゃったみたいな感覚で、ずっとどうしようどうしよう、と･･･。ですが、序論本論クラスになり、先生方から質問がどんどん飛んできて何とか応えようとするうちに、ハッと１歩抜けた感じがあったんです。目次立てが始まり道筋が見えたところで、次はどう進めていくか、また次の悩みが続くわけですが、２年間とにかくずっと論文のことばかり考えていました。その感覚はすごく印象に残っています。

平林　プレ序論クラスが一番大変という方は多いのではないでしょうか。テーマと方向性と結論までの道筋が決まれば、あとは何とか進んでいけると思いますね。

筬島　自分がどう動くか、ですよね。最初のうちはどう動けばいいのかすらわからないのですが。

柳井　最初に目次を作りますよね。ですが文献も読めず、何もわからないので、構成できないんですよ。もっと文献を読まないと作れないぞ、と。とにかく読むしかない。

平林　できれば目次は、結論から逆算で組んでいった方がいいんですよね。これが言いたかったらこれを結論付ける必要があり、これを結論付けるためにはこれを調べる必要があって、と。そのほうが文献収集も楽だし、目次も作れるはずです。

柳井　私は、その結論がわからなかったです（笑）少し取っかかりがあれば、そこを軸に広げられるとは思うのですが、本当にわからない。ただテーマだけは入学前に決めていました。絶対に「無償取引」をやるぞ、と。それだけでもほんの少しは楽だった気がします。先行研究があるかという点は重視したほうがいいです。無償取引なら先行研究は豊富にあるので、もし途中で迷ってもどうにかなるかなという気持ちもありました。

劉　筬島さんから「自分がどう動くか」という発言がありましたが、筬島さん、論文執筆中に株券を買ってましたよね？

筬島　買ってました（笑）。安楽亭ですね。安楽亭事件について書くために、安楽亭の株を買って、株主総会に突撃してきました。

劉　本当にびっくりして。だって、急に買ってきました、って！

筬島　優待券の実物ってどんなものなのか、裏面にはどんなことが書いてあるのか気になって･･･。主査の先生に見せたら、思いの外評価してもらえました。本当は株主総会で質問をしたかったのですが、それは叶いませんでした。

劉　後にも先にも筬島さんだけですよ！あの行動力は本当に素晴らしい。

筬島　ありがとうございます。安楽亭事件は、交際費で書く人にとって最初の壁といいますか･･･。裁決文を見つけるのが大変でした。プレ序論クラスの時には、判決と裁決の区別もついていないので、主査の先生に安楽亭事件と言われてもなかなか見つけることできず。裁決ですからないのは当たり前。非公開ですから。TAINS にあると気づくまで、ものすごい時間がかかりました。

平林　TAINS だととれるんですよね。私は公開請求しました。

筬島　そうですか！すごいですね。

平林　副査の先生に「非公開裁決ってどうすればいいですか？」と相談したら「それはね、公開請求をすればいいんですよ。」と。あっ！そうか！と。それで 2 件、公開請求をかけました。

劉　結局論文は、自分がどうするかにかかっていると思うんです。行動するって本当に大事ですね。

平林　そのとおりだと思います。文献収集も、面倒だしお金かかるしって躊躇したりしないで、少しでも引っかかるものがあれば全部集める。それを最初にやってしまわないと後がすごく大変です。私は必要な資料であれば、企業に問い合わせもしました。修士論文で必要ですと言えば、問題なくいただけましたよ。

仕事を持つ社会人には理想的なカリキュラム
科目免除に向けてひた走れる環境

劉　主体性は非常に大事ですよね。皆さんにぜひ聞いてみたいんですが、進学を検討する際、他大学院と比較しましたか？ネームバリューでは他大学院には敵いませんし、どういった視点で LEC を選んだんでしょうか。

平林　通えるところ、仕事と無理なく並立できるところが全てでした。所長からは、土日に出社して、代わりに平日 2 日を大学院の日としてもいいとも言われたのですが、できれば勤務は変えずに、夜と土日に通えたほうがいいと考え、それで、ここだ！と。

筬島　おそらくほとんどの学生にとってそこが 1 番大きいんじゃないかなと思いますね。個人的に付け加えると、私の場合、入学前の事務局の方の対応がとても丁寧だったんです。大学院進学は初めての経験なのでわからないことや不安も多くいろいろ相談したのですが、都度親身に対応いただき、ここでなら 2 年間頑張れるのでは、という気持ちで決断しました。

劉　皆さんある程度、入学後のことは想像ついていましたか？例えば、修士論文作成でのマイルストーン管理のことなど。

平林　マイルストーン管理を知ったのは入学後でした。いつまでにこれをやりましょう、という目標があるのはわかりやすかったですね。ここまでに資料を揃えて、ここまでに構成を作って、ここまでに結論を確定させて、という流れならやれるなと、入学後に思いました。

味水　先生方もそのメソッドにすごく自信を持っていらっしゃいますよね。このメソッドがあれば絶対書けるから、というのはひしひしと伝わってくるものがあって、じゃあ書けるのかな、と、そんな気持ちにさせてもらいました。私なんか、もう本当に書けない書けないどうしようと思っていたところに、「大丈夫、このメソッドでみんな書いているから」と言われると、そんなもんかなとその気にさせてもらえました。実際本当にその通りだったので。

柳井　免除認定を大々的に謳っている大学院は、たぶん LEC くらいではないでしょうか。

筬島　確かに。当時はなかなかなかったかもしれないですね。

柳井　当時、私が通える圏内では、LEC だけが自信を持って「免除認定できる論文を書かせます」みたいな。え、すごい、こんなこと言えちゃうんだと思いました。当時はまだ免除ってちょっとタブー感がありましたよね。そんな中でもガツンと謳っているこの大学院はなんだ、相当自信があるなと。仕事と両立もでき、更にそれ以外にも得るものがありそうだというのが、ホームページや資料からもしっかりわかったので。正直言うとネームバリューは気にしました。気にしましたが、それよりも得るものが大きいと感じましたし、絶対大丈夫だと思って入学しました。結果、本当にその通りでしたね。

「論文脳は書かないとすぐ退化する」
毎週欠かさず課題に触れることが重要

劉　ここだ！と思って入学しても、実際結構大変だったと思うんですよ。私がもしここに入学したら多分無理でした（笑）。毎週論文草稿を提出しろとか、結構指示が多いですよね。

味水　すごくお尻を叩いてもらった感はあります。短いスパンでお尻を叩いていただかないと、頭がずっと論文という状態にならないんです。来週はなくて、その次だと思うと 1 週間くらい人間って頭から追いやっちゃうんですよね。ここは仕事に集中しようみたいな感じで。ただ、毎週毎週締め切りがあるので、頭の中で考えざるを得ないという状況に追い込まれるというか。結構忙しいですよ。指導受けてから提出まで 1 週間ないので。

劉　一般的な修士課程ですと 1 年間はゼミの中で学生が発表しあって、たまに教員からフィードバックがあり、2 年になったところでテーマを決めましょう、というところが多いと思います。それが LEC では 1 年次から毎週毎週常に提出させるシステムで。

平林　学生が自主的に書かないことには終わらないですよね。

筬島　誰も書いてくれないですしね、書くしかない。

劉　まさにその通りですね。そうは言っても皆さん仕事もあってなかなか進まない時、いくら積極的に捉えようと思ってもできない時ってありましたよね？LEC の場合、3 人の指導教員からそれぞれ課題が示されて、それに対応するのも大変だと思いますし。

柳井　全部できなくても 1 つは答えようと。それでもいいと思います。単に「できませんでした」ではなく、考えてみたけれどまだ結論が出ていませんとか、少しでも何かしらタッチして、1 週間のうちに、本当に 1 ページ見ただけでもいいと思います。皆さん忙しいので、簡単に「やってません」と言ってしまうことがあるのではないでしょうか。

平林　この文献を見てみたのですが全然何書いてあるのかわかりません、でも、それを言うほうがいいと思いますね。

柳井　そうですね。それならこっちの文献読んでみようかとか、話が進むと思います。考えた結果ここの文章を削除しました、だけでもいいと思うんです。やはり毎週必ず課題に対して何かしらほんの一部でいいから触れるということが大事だと思います。簡単に「やってません」と言わないことです。こちらの積極的な姿勢をきちんと見せていったほうがより早期に完成できる印象はあります。何を考えているかというきっかけを少しでも先生に披露するのがいいですよ。

平林　「論文脳は書かないとすぐ退化する」と言いますが、それは本当ですね。

劉　文章を書ける書けないという差はどんなところにあると思いますか？単に学歴だけではないと思うのですが。

平林　いろいろな文章を読み慣れているか、ということはあるかもしれないですね。文章を書く経験も、Twitter の 140 文字でもいいので書き慣れていると違うと思うんですよね。論文だからって難しい文章を書こうとしすぎということもあるかもしれませんね。

筬島　最初はどうしても、かっこつけた文章じゃないと恥ずかしい、という感覚がありますよね。

味水　中身を知らない人でもスラスラと読める文章というのが 1 番綺麗な文章だと思うんですね。例えば家族にでもちょっと読んでもらって、わかりにくいところを指摘してもらう。そうするとだんだん客観的な文章を書けるようになります。独りよがりで書いてしまうとダメですね。

劉　私も指導の中で、「小学校の租税教室でそれを説明する時に、そんな説明の仕方はしないでしょう、いきなり難しい話からは入らないでしょう」いうことはよく言います。

平林　論文って何のために書くんですか、ということですよね。自分の主張を伝えたいがために書くのが前提でしょう。伝わるように、納得してもらえるように書かなければいけないですよね。

柳井　仕事と共通点がある気がしますね。仕事を回す人というのは、なりふり構わずその目的に向かっていろんなプランでアプローチをすると思うんです。普通だったら 1 ヶ月かかる仕事を 1 週間で終えなきゃならないっていう時の、それをやり遂げるための効率の良さ。論文ももしかしたらそれに近いかもしれないですよね。目的があってそこに効率よくアプローチするということを考えた時に、まずは自分が今何を考えているか、どんなことに困っているのかなどをとにかく伝えなければいけないと思うんです。これまでの私の経験では、仕事がなかなか回らないという方は、やっぱりなかなか情報を出さない。本人に何が起きているのか上司が把握できないので上司もフォローに入りたくても動けない。完成に早くたどり着くためのアプローチができるか、その回し方はすごく大事だと思います。そこは学歴は関係ないです。なんでもいいから伝えてください。そうすれば先生方はフォローしてくださいます。

劉　説明することが一番難しかったのは、序論のところだと思います。特に味水さんと柳井さんのテーマはあまり身近なものではないので、余計に伝えることが難しくはなかったですか？

味水　何を伝えたいのかがわからなくなったことも度々でした。

劉　「無償取引」ってとっつきにくいですよね。

柳井　私の場合は、実務で直面したことだったので、そこまで離れた感覚のテーマではなかったです。

劉　読んだ時に、これなんぞや、と･･･、全然わからなかったです。私みたいな人にどう説明するか、というところで苦労したかなと思ったのですが。

柳井　自分がまず理解することを意識しました。聞かれても答えられるよう、主査の先生とのやり取りで鍛えられた面もありますが。

味水　私の場合は逆に実務にあまり携わっていなかったからこそ選べたテーマなのかなと後々思いました。法人税法 132 条の 2 の行為計算否認を扱ったのですが、途中、論文を書いているのか、租税法について理解を深めようとしているのか、その 2 つが並行している感覚でした。自分の中で租税法というものがだんだん腑に落ちていくのと、論文が進んでいくのが並行していっているような感じです。租税法って何だろう、不当とは何だろう、というところをずっと考えていました。すごく

魅力を感じたんです。すごく惹きつけられて。いろいろな著者・研究者が書いた文章を読む、新しい気づきを得る。読めば読むほど迷宮入りみたいな感じでしたが、でもそうすると、じゃあそもそも租税法でいう「不当」とは何だろうと、またそっちに戻っていく。条文と金子租税法を行ったり来たりみたいな感じをずっとやっていました。132 条の 2 について書いたというよりは、「私は租税法についてこういう理解をしました」という論文に仕上がったのかなと。大それたテーマを選んだなと途中で気づいたんですが、先生と本当に二人三脚で、ああじゃないかこうじゃないかと結論も二転三転しながらたどり着いてようやく筆を置いた、というそんな感じです。

平林　すごく大事なところですね。自分が興味を覚えないと書けないですよ。

味水　条文や判決への愛情じゃないですけど、熱意というか、そういうものが必要ですね。

平林　自分が書いている題材に対してどれだけ興味を抱けるか。興味を持つにはやはりいろいろな文献を読まないとしょうがない。プレ序論クラスで先生方がとにかく文献集めて読めと。それやらないと後がすごく大変です。

筬島　興味を持って集めだすと芋づる式にどんどん出てきますね。どんどん調べたくなるし、比較したくなる。そうすると分析がだんだん立体的になってきますね。

確固たる軸を持つ税理士に
苦労の先には輝く未来が待っている

劉　ここまで皆さんのお話をいろいろとお聞きしてきましたが、最後に大学院での学びが今にどうつながっているか、改めて伺ってもよろしいでしょうか。そして、まさに今、修士論文の作成に取り組んでいる在学生やこれから大学院進学を志す方たちに向けたアドバイスやメッセージもぜひいただきたいと思います。

筬島　大学院で得た Word の知識とライティングの技能、これが今の自分の柱になっていると実感しています。今後も大学院での学びを生かして、お客様に対して丁寧な説明、心を砕いた説明を常に志していける税理士でいたいです。プレ序論クラスならプレ序論クラスの、序論クラスなら序論クラスの、それぞれの段階での悩みや焦りを抱えますよね。どう動けばいいのかもわからないような非常に苦しい時期もあると思います。そんな中でも自分からとにかく主体的に動いていくこと。あとはもう熱意と行動力です。先生方のご指導を信じて食らいついていけば、論文は必ず完成すると思いますので、ぜひ頑張っていただきたいと思います。

平林　「税理士は法律家」という教えをすごく意識しています。大学院で学び修士論文を書き上げたことによって、これを武器にしてやっていけるという軸ができました。学生の皆さんも、ちゃんとここで真面目にやれば、税理士として上のランクに行けるんだという意識を強く持って欲しいです。そのためには、やはり自分自身で納得のいくしっかりとした論文を書き上げないといけない。今が追い込み時です。そして、わからないことはとにかく聞く、ということが重要です。誰でもいいか

ら聞く。わかる人全部に聞きまくること。もう一つ、論文は途中で誰かに読んでもらうことです。頼むのは恥ずかしいかもしれませんが、その後に得るものを考えれば、その程度の恥はかき捨てです。2 年間、密度高く頑張ることができれば、一段も二段もグレードの高い税理士になれるはずです。ぜひ頑張ってほしいなと思います。

味水　大学院での学びは、税理士としての自分の基盤を作ってくれたと日々痛感しています。税理士は 5 科目合格すればなれますが、5 科目の知識だけでは仕事が回るものではなくて、法律も税法 3 科目に合格していても、その 3 科目で仕事ができるかというとそういうわけではない。幅広い知識、知見、そういったものがやはり必要になります。税理士として 1 人で立っていくための土台を作ってもらえた場所が大学院でした。本当に 2 年間あっという間でしたが、私の人生で 1 番密度の濃い 2 年間でした。すごく苦しいことも多かったですが･･･。今まさに修士論文に臨んでいる皆さんも苦しい思いをされてるんじゃないかと思います。でも絶対その先には輝かしい未来が待っています。ぜひ頑張っていただきたいです。

柳井　法律ができるまでの背景や立法趣旨、これを学べるのは大学院だからこそです。自分が独り立ちしたら、自分の責任で判断し決定しなければいけません。責任を持って判断を下して処理をする。その力をつけるためには、立法趣旨を知ることは大きな拠り所になるはずです。ダイレクトに実務に活きる学びを蓄積できたことを実感しています。今、頑張っている皆さん、つまずくこともたくさんあると思います。私も同じでした。ですが、どこかでスパークする瞬間がきます。あっ！こういうことだった！とサクサク進む時がくると思うんです。それまでは、何がわからないか、何ができなかったかをぶつける。恥ずかしがらずに全部先生に伝えること。そして、自分で足を動かして情報を取りにいくことです。苦しい時もたくさんあると思いますが、諦めないでほしいと思います。「もうダメか、と思った時が踏ん張り時」これは先輩に教えていただいた言葉ですが、私は苦しい時、いつもこの言葉を糧に頑張りました。ここでもう一回踏ん張ろうと。そしたらきっと前に進むはず。絶対に諦めないでほしいと思います。

劉　先輩からの貴重なアドバイス、ありがとうございます。非常に参考になり、励まされる方も多いはずです。本日は誠にありがとうございました。